

アンチセンス・遺伝子・デリバリー シンポジウム2011

2011. 9. 1

17:30 - 18:30

大阪大学コンベンションセンター

MOホール

植村 理葉

ヴァイオリン コンサート



曲目

テレマン: 12のファンタジーより第8番

G.P. Telemann: Fantasia VIII for violin solo (1735)

クライスラー: レチタティーヴォとスケルツォ

F. Kreisler: Recitativo and scherzo for violin solo Op.6

イザイ: 無伴奏ヴァイオリンソナタ第5番

Eugène Ysaÿe: Sonata No.5 G-major for solo violin Op.27 No.5

バッハ: 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番よりシャコンヌ

J.S. Bach: Chaconne from Partita No.2 D-minor for violin solo BWV 1004

アンチセンス・遺伝子・デリバリー シンポジウム 2011 ヴァイオリン コンサート

2011年9月1日(木) 17:30-18:30 大阪大学コンベンションセンター

主催：アンチセンス DNA/RNA 研究会 遺伝子・デリバリー研究会
世話人：佐々木茂貴(九州大学薬学研究院) 丸山 一雄(帝京大学薬学部)
中川 晋作(大阪大学大学院薬学研究科)

出演：植村 理葉(ヴァイオリン)

曲目：テレマン：12のファンタジーより第8番

G.P. Telemann: Fantasia VIII for violin solo (1735)

クライスラー：レチタティーヴォとスケルツォ

F. Kreisler: Recitativo and scherzo for violin solo Op.6

イザイ：無伴奏ヴァイオリンソナタ第5番

Eugène Ysaÿe: Sonata No.5 G-major for solo violin Op.27 No.5

バッハ：無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ第2番よりシャコンヌ

J.S. Bach: Chaconne from Partita No.2 D-minor for violin solo BWV 1004

演奏者：植村理葉

4歳よりヴァイオリンを始める。第36回全日本学生音楽コンクールヴァイオリン部門小学生の部全国1位。第58回日本音楽コンクール第2位及びナカミチ賞受賞。第15回新日鉄音楽賞フレッシュ・アーティスト賞を受賞。ミケランジェロ・アバド国際コンクールで優勝。レオポルド・モーツァルト国際コンクールでは最高位を受賞及びモーツァルト特別賞を受賞。その他多数の国際コンクールに入賞している。桐朋女子高等学校音楽科を卒業しケルン音楽大学でイゴール・オジム氏に師事。文化庁芸術家在外研修員(3年派遣)として研鑽を積み、最優秀成績で卒業。ローザンヌ音楽院では、ピエール・アモワイヤル氏に師事、首席で卒業。ヨーロッパでこれまでオーケストラと協演したコンサートは80回を超え、高評を得る。ケルン室内オーケストラ、プラハ・シンフォニエッタ、ハレ・フィルハーモニー管弦楽団、アウグスブルク・フィルハーモニー管弦楽団、ボン・クラシッシェ・フィルハーモニー、サンクトペテルブルク・カメラータ、ローザンヌ室内管弦楽団、チューリングゲン・フィルハーモニーの定期演奏会で共演、音楽祭にも招かれる。また、ドイツの主要ホールでのコンサートツアーでは、シューマンの協奏曲を演奏、同曲でドイツ・ソニーからCDも出ている。日本国内では、毎日ゾリスTEN(毎日新聞社主催)に出演。近年は、バッハの無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータとソナタの全曲演奏会、ブラームスのヴァイオリン・ソナタおよびベートーヴェンのヴァイオリン・ソナタの全曲演奏会が行われる他、ヨーロッパでオーケストラと協演。植村理葉は、協奏曲の独奏者としての活躍が大きく目立つ。モーツァルトのヴァイオリン協奏曲では「きわめて優れた様式感」「一貫して緊張を保ち聴き手に息をつく暇をあたえない」(ボンのゲネラル・アンツァイガー紙)、ハイドンの協奏曲では、「音が美しく、表現が明澄で、清潔な音楽をつくるバイオリニスト」(ボナー・ルントシャウ紙)。「ボンの人達は彼女をウィーン古典派の協奏曲のソリストとして既に認知している。」(同紙)と批評に記されるほど古典では既に定評を得ている。さらに古典派だけではなく、シューマンのヴァイオリン協奏曲奏者としての度重なる抜擢、1999年のシベリウスの協奏曲では会場の聴衆を大いに沸かせ、ストラヴィンスキーの協奏曲では「新古典主義的なヴァイオリン協奏曲の完璧な演奏で聴衆を魅了し、聴衆は熱狂的な歓声をあげた。」(ドレスデン・ザクセン新聞)とあるようにロマン派以降のヴァイオリン協奏曲においてもこの数年彼女は大きな成果を挙げている。作品に対する確実な把握を大事にし、持ち味の水を切るような透明感にあふれた音楽的処理、快いテンポで前進する彼女の演奏に、厚みと深みが加えられ、人々の共感を惹き起こす熱い演奏を可能にしている。2009年にカメラータ・トウキョウから『ラヴェル：ヴァイオリン・ソナタ フランス・ヴァイオリン作品集』(CMCD-28183)をリリース、新聞、音楽雑誌上に高評を得る。毎日新聞主催全日本学生音楽コンクール審査員。



植村さんのホームページ
<http://www.riyo-uemura.com>